



豊島区立中央図書館報

第4号/隔月刊

2008

図書館通信

和泉流狂言師
野村 萬
のむら まん



写真協力(前島写真店)

「年の始めに」

「春母に 君を祝ひて若菜摘む
わが衣手に降る雪を 払はじ
私はで そのまゝに 受くる
袖の雪 運び重ね 雪山を
千代に降れと作らん
雪山を千代と作らん」

元旦の早朝、注連縄を張り巡らした舞台で行う、芸事始め「謡初」の定めの小舞謡「雪山」の詞章です。大蔵流は「土車」を謡うと聞きますし、能の方でも、流派により種々異な

発行●豊島区立中央図書館

東京都豊島区東池袋四一五一一

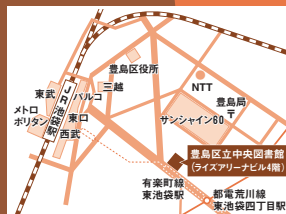
ライズアリーナビル4階 エレベーター八四四一

電話●〇三三九八三二七八六

FAX●〇三三九八三二九九〇四

ホームページ●<http://www.library.toshimato.kyo.jp>

発行日●平成20年1月



トピックス

館通信

- 巻頭言「年の始めに」(野村萬)
- あうるすぽっとの船出(小田島雄志)
- お店探訪(紙のたかむら)
- 古書蒐集家のひとこと(荒井智之)
- 豊島区伝統工芸(内田貴金属美術工芸)
- 読み聞かせ講習会受講生募集
- 明治女学校百年(伊藤榮次)

るところもあるでしょうが、「謡初」を、新年の重要な伝統行事とすることに違いはなからうと思います。「書初」「初釜」「歌会始」等々、暦の改まる新年をそれぞれの道の大事な節目とすることは、能楽に限ったことでもないでしょう。

昨秋、「あうるすぽっと」の「柿落」としにお招き戴いて、演じた「三番叟」も、各流派の初能に必ず上演される「翁」の中の、狂言方が勤める舞です。「翁」は、「能にして能にあらず」と言われる、天下泰平、五穀豊穡を願う祝祷の曲で、演者も斎戒沐浴、別火深斎して勤めるべきものとされています。「三番叟」の舞は、足拍子が多く、かかわる「地固め」の意図が介在するものと考えられております。「中央図書館」と「あうるすぽっと」

新航路【3】

職員配置と人材育成

図書館サービスの担い手を3種類に大別すると、サービスの中核を担う非常勤の奉仕員、カウンター業務を担う民間委託会社の社員、総合的なサービス調整を行う常勤職員になります。

奉仕員の定数は48人で、中央館に12人、地域館6館に6人ずつ配置されています。奉仕員は、その専門性を活かし、本の選書やレファレンス(3ページ参照)などを日常の業務とするほか、各種行事の企画・運営を通して読書活動を推進しています。また、平成15年度から業務の一部を民間委託し、本の貸出や返却、利用カードの発行など、利用者の皆様への直接的サービスの大半は委託社員が担っています。こうした業務委託を進める背景には、区全体で「平成22年度2000人職員体制」を目指し、毎年100人削減していくという計画があるからです。図書館だけ

例外というわけにはいかず、来年4月からは、さらに委託を拡大し、地域館の常勤職員は館長のみという体制になります。委託前の14年度と比較しますと78%減で13人となる常勤職員ですが、選書やレファレンスのほか、業務が複雑化・細分化するなか、日々のサービスに齟齬が生じないよう調整役として、また、児童担当・10代担当などの各パートにおいて取りまとめ役を務めています。

図書館運営にも指定管理者制度を導入する自治体が出現している今日、本区でも、導入の検討がされています。しかし私たちは、サービスの根幹は人であるという信念のもと、キャリアと経験があり、所蔵資料に精通し、利用者の意向を理解して、より良いサービスの提供に知恵を絞る奉仕員の能力を活用していきたいと考えています。そのためには、奉仕員個人の努力だけではなく、組織的にその能力開発を応援していかなければなりません。また、身につけた知識や経験を思う存分発揮できる職場の環境作りや、処遇の改善も必要です。

平成20年度からは、計画的な研修を実施できるよう予算を要望しています。選書やレファレンス、読み聞かせなどの専門研修以外に、接客、コミュニケーション能力、コーチング、危機管理など現場の第一線で働く職員としての資質の向上を図り、これまで以上に利用者の皆様に信頼される図書館を目指してまいります。

Current & Encounter

「茂吉遠望」

豊島区図書館行政政策顧問

粕谷 一希

斎藤茂吉といえば、われわれの世代は、赤版の芸術新書『萬葉秀歌』を思い出す。われわれの茂吉と万葉の雑多な知識はこの一冊から始まっている。学生時代『文芸首都』の同人だった茂吉の息子の北杜夫と知り合って彼の奇矯な言動のお陰で、茂吉という存在が身近なものとなった。それから歳月を経て、東北旅行の途次、斎藤茂吉記念館に立ち寄ったことがある。その佇まいの立派なことに驚いた。それと同時に『斎藤茂吉と阿部次郎』という風変わりな書物を手に入れた。私たちは別々の世界の人として読んできたが、二人は山形県出身の同郷人であり、東北大学で講演を頼んだりして、交遊も深まっていたようである。たしかに粘り強い強靱さと鋭利な感受性には共通したものがあるかもしれない。

それからまた時が経ち、年少の友人の誘いで四国の松山に旅したときのこと、案内者の某氏が、子規の何回忌かに来訪した茂吉が、フとした縁で松山の某女と知り合い、晩年の愛人として茂吉の死まで、その関係は続いたという。地元の数少ない人々だけが知っていた話らしく、北杜夫も「騙された」と知らなかつたらしい。松山はまだまだに街全体が俳句の街であり、子規記念館を中心に、ゆかしい気風の息づいている町である。

本のある風景



ビッグブックはおはなし会で大人気(中央図書館)
「本のある風景」写真の投稿を募集します。
詳細は中央図書館企画調整担当へご連絡ください。
電話03-3983-7861

そんな縁がつづくと、地元の書肆山田から、岡井隆氏の『赤光』の生誕という部厚い力作が、一昨年(二〇〇五)出版された。詩集・歌集が売れる物書肆山田も、こうした評論の出版物の仕事を増す。書肆山田の主人は、鼻の下に鬚を貯えたダンディな人で、しかし、どこかたかくなままでの一刻者であるのかもしれない。散歩がてらに街に出るとき、あるいは近くの酒場で顔を合わすことがある。しかし、彼は三三三ながら、その詩論を聴く機会をもっていない。きっと彼は六万ミ屋なのだろう。

生涯の一冊 (3)



「生きるのが楽しくなる15の習慣」
日野原重明 著
(株)講談社

女子栄養大学 学長
香川 芳子



昨年11月に「豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定」が調印されました。女子栄養大学には、食と栄養を通して健康で豊かな地域社会の創造にご尽力いただいています。

「生きるのが楽しくなる15の習慣」

本学の創立者である香川様は、「実践なき理論は空しい。理論なき実践は発展しない」と言っています。この思いが、建学の理念としての「実践栄養」に集約されており、現在の学生、生徒に対しても、自分自身でやること、継続すること、自分自身を変えることの重要性を伝える教育が行われています。

その一環として、現在、入学する学生に対して、読書の習慣を身につけるための足がかりとなるよう、5冊の本を読むように読まされていますが、そのうち1冊が、日野原重明先生の「生きるのが楽しくなる15の習慣」です。

この本は、「習慣が人をつくる、心も体も」「学び、考え、人生を広げる」「良い習慣は家庭で育つ」「人は死と出会い、命を知る」「健康は習慣の積み重ね」「心の元気が健康を生む」「自分を見つめ、幸せに生きる」の7章から

ら成りますが、そのいずれにおいても、行為や心の持ち方を習慣とすることの重要性がわかりやすく書かれています。習慣とはその人にとって当たり前のことにすることであり、より良い習慣を身につけることは、生きていく上での財産となります。その財産づくりのヒントが、この本にはあります。

現代社会において、これまでは考えられなかったような変化が起きています。その一つが食習慣の変化であり、これにより、様々な社会問題が生まれています。人の生活の基本となる食習慣が崩れれば、人のあり方も崩れます。健康が土台となつて人生の可能性を広げることが求められる中で、健康が土台となつて、健康に関わる人間として、より良い習慣を見つけていくことの大切さを伝えること、大いに共感するとともに、これを広く皆さまにお知らせしたいと思えます。

日野原先生とお話しするたび、その「活躍を見るにつけ、自分の役割を全うするために、自分自身を粗末にしない」ということ、人として「最期まで生ききるため」に、よい習慣を身につけることが大切であると教えられる冊です。

池袋図書館がお薦めする本

「お正月に家族・恋人と読みたい本」

書名 『雪のひとひら』

著者名 ポール・ギャリコ/著

矢川澄子/訳

出版社 新潮社(新潮文庫)

所蔵館 中央・池袋・千早



ある寒い冬の日、はるか空の高みで生まれた雪のひとひら。
地上に舞い降りた彼女が長い旅の中で見つけたかけがえのないものは—?
どんなときもひたむきに旅を続ける雪のひとひらの姿が印象的な物語。大切な人に手渡したくなる1冊です。

児童向け



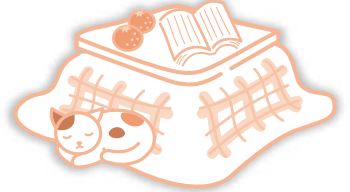
書名 『おもちのきもち』

著者名 かがくいひろし作・絵

出版社 講談社

所蔵館 中央・駒込・巣鴨・池袋・千早

お正月といえば、やっぱり、お餅ですね。きな粉に磯辺巻き、あんこ餅…どれもおいしいそう。でも、「おもちのきもち」って考えたことありますか?おめでたい「鏡餅」が主人公のこの作品、大爆笑間違いなしです。



書名 『父の詫び状』

著者名 向田邦子

出版社 文藝春秋 刊

所蔵館 中央・駒込・巣鴨・池袋・千早(文庫版)

中央・千早(単行本)

中央(大活字本)

厳格な父がふとみせる愛情、質素でもあたたかい食卓…古きよき昭和の時代の家族の情景が鮮やかに描かれたエッセイ集。
どこか懐かしく、幸せなきもちになれる一冊です。

レファレンスとは?

図書館では、皆さんの調べたいこと・知りたいことのために、図書館の所蔵資料などから、資料・情報を探お手伝いをいたします。このお手伝いをレファレンスと呼んでいます。宿題やクイズの解答など、一部お答えできないものもありますが、お近くの図書館のカウンター(中央図書館にはレファレンス専用カウンターがあります)、またはお電話でお気軽にお尋ねください。



中央図書館レファレンスカウンター

ボランティア紹介

図書館でボランティアとして、また自主的に活動されている皆様をご紹介します。

「千早図書館友の会」

千早図書館を拠点に活動している千早図書館友の会は、故 沢寿次氏らによって昭和52年に発足しました。現在は、世話人として高山訓江氏・細野一雄氏・竹内里美氏・清水昭邦氏を中心に活発に活動しています。会の主旨は、「地域住民と図書館のことを話し合い、読書活動を活発にし、地域文化の向上に役立つ活動をする」ことで、毎月第3金曜日に例会を開き、機関誌「千早文化園」を発行しています。

近隣の名所・旧跡を巡り歩いて健康増進、知的栄養も享受できる一石二鳥の催し「史跡散歩」や、地域の研究者を招いて講演をしてもらった「千早進歩自由夢(ちはやしんぼじゆうむ)」は、知的探究心

あふれる人々で盛会です。昨年すでに城西高校の東谷校長先生が「大正自由教育と西池袋」について講演され、本年2月には鈴木含わか馬さんの「落語」が予定されています。

今回の取材では、会運営の喜び・ご苦労などうかがいましたが、世話人の方々へ共通していることは、「より地域の皆様に楽しんでいただける事業を」「自分たちも勉強したい」という熱い思いです。いろいろ学びたい方、自分のこれまでの経験を活かしたい方、事業の企画に興味のある方、まずは気軽に「千早進歩自由夢」にご参加ください。

1月19日(土)『日本の名筆・珈琲』編の朗読とお話(本紙4頁イベント情報参照)でお待ちしております。

舞台芸術を発信する あうるすぽっとの展望をうかがいました

あうるすぽっとの船出

あうるすぽっとは順風満帆の船出をした。順風を吹き送ったのは高野区長はじめ豊島区の皆さんであり、それを受けて船を発信させた四枚の帆は、「ハロルド&モード」、『駅・ターミナル』、『海と日傘』、『朱雀家の滅亡』のスタッフ・キャストである。柿落とし公演の初日の幕がおろしたと、楽屋に戻ったスタッフ・キャストたちが、どんなに達成感にあふれた誇らしげな顔、顔、顔を見せていたか、そして劇場から帰って行く観客たちがどんなに感動をたまたたかす顔、顔、顔をしていたか、それを思い出すとほくの顔も自然に喜びにほころんでくる。四本の舞台に提示された時と所はそれぞれ異なるが、いずれも現代の日本で生きていくことの意味、愛することの大切さなどを、胸底までしみとおるよう感じさせてくれたのである。

演劇を見る楽しみは、セリフの一言半句、俳優の一手一投足を通してでも

おだしま ゆうし
豊島区芸術顧問 小田島 雄志

プロフィール

昭和5年生。演劇評論家。東京大学文学部英文科卒。東京大学名誉教授、東京芸術劇場名誉館長。紫綬褒章受章、文化功労者。『シェイクスピア全集』など翻訳多数。『シェイクスピアの人間学』など著書多数。平成17年7月～豊島区芸術顧問。



いい、人間とはいかに愛し、憎み、いかに喜び、悲しむ存在であるかを、発見しない再発見することにある、と思う。あうるすぽっとは、その楽しみをたっぷりふり撒きながら出帆した。松島支配人に今後の進路を訊ねると、彼は力強く宣言した、「あうるすぽっとは、人を蘇生させることができるような芝居を提供していきたい、と思います。いや、必ず提供してみせます」。それを聞いてはくは、その観客席にでられるだけ多く足をこは、そのたびに蘇生して長生きしよう、と思った。

特別展示のお知らせ

中央図書館では、4階特集棚、5階特別展示コーナーにてテーマ別の特別展示を行っています。1月22日の講演会講演会講師、丸谷才一氏・渡辺憲司氏の著作や遊郭関係資料、ゼミナール「豊島区の群像—雑司ヶ谷霊園に眠る人々」、池袋モンパルナス」のほか、1月26日から上演される「チェーホフ短編集」など、あうるすぽっととタイアップ公演関係資料を展示します。

地域の図書館紹介「巣鴨図書館編」

巣鴨図書館は、昭和43年8月に開館した、区内で最も歴史のある地域図書館です。とげぬき地蔵で有名な巣鴨地蔵通りからほど近い、閑静な住宅街の中にあります。

当館の庭には噴水池を中心に、ソメイヨシノやツツジ、アジサイ、キンモクセイなどが植えられており、四季折々の花を楽しむことができます。特に3月下旬から4月上旬にかけては、2階の閲覧室の窓から満開の桜を望むことができます。

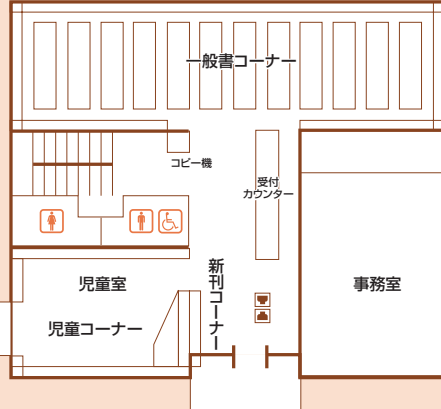
地域の特色を生かした図書館づくりとしては、2階に「巣鴨関係コーナー」を設け、地蔵

や中山道、大塚ろく学校の方にもご利用いただけるよう聴覚障害に関する資料を中心に、巣鴨に関係する様々な資料を集積しており、地域に密着した図書館を自覚しています。

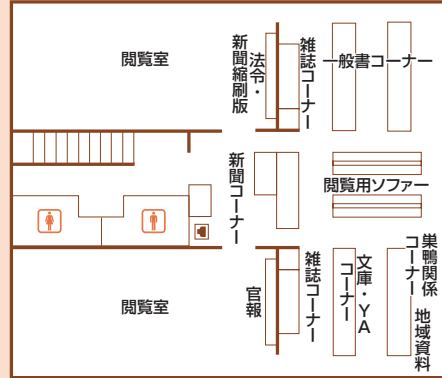
当館の蔵書数は約7万冊です。まわりを障子戸で囲まれた2階の閲覧室では、落ち着いた雰囲気の中、図書資料の閲覧をしていただくことができます。また、閲覧用のソファもあり、くつろいだスペースで新聞、雑誌等をご覧いただけます。

皆さまのご利用を職員一同、心よりお待ちしております。

1F平面図



2F平面図



■：検索用端末機



- 巣鴨図書館**
- 住所：〒170-0002 豊島区巣鴨3-8-2
 - 電話番号：03-3910-3608
 - 交通案内：JR山手線 大塚駅北口 徒歩8分
JR山手線 巣鴨駅 徒歩9分
 - 閲覧席数：96席
 - パソコン利用席：なし

豊島区伝統工芸

豊島区伝統工芸保存会会員の皆様をご紹介します。

東京銀器 内田貴金属美術工芸



川友衛氏から伝授されたもので高度な技術と熟練が必要な技だが、銀と銅など色あ

上池袋1丁目の閑静な住宅地に鉄鑄の音が響く。銀器工芸、内田敏郎さんの工房だ。製作工程は、銀塊を溶かし「伸ばし板」を作るところから始まる。純銀は軟らかいため、銅を混入して実用に適した固い合金を作る。板を糸鋸で切り、平面的なものはヤスリで削り形を整える。鉄鑄で叩いて立



体にするものもある。仕上げには「金消し」というお化粧を施す。内田作品の特徴は、面の部を切り取り、異なる材質の金属を嵌め込んで模様を出す切抜技法である。これは、伯父で第10回目展に五重塔を出品した小

な技術と熟練が必要な技だが、銀と銅など色あいの異なる素材を組み合わせることで表現の幅が広がるともいえる。金属の接合には、本体の銀より早く溶ける「ろう銀」という融解温度の異なる種類の金属を用いる。合金・金消し。ろう銀は、古来からさまざまな化学反応を利用して作られている。美しい銀の皿が人類英知の結晶に思えた。銀は変色しやすく手入れが大変と聞くが、重曹で磨けば元どおり、いつまでも美しい輝きで使うことができる。欧州では、日本の数倍も銀器が多用されている。その昔、薬物に反応するという銀の性質を活かして毒殺防止に役立っていたという話しには文化の相違を感じてしまうが、その丈夫さ、美しさ、そして高級感は今も東西を問わず人々を魅了し続けている。

◆「銀器と化学」

鳥が緑ケ丘に住んでいたのは、昭和25年から34年までの間で、三

名刺の宛名が山路だっらつらと思いを馳せる。山路、三島、某氏の交遊は…



鳥が緑ケ丘に住んでいたのは、昭和25年から34年までの間で、三

名刺の宛名が山路だっらつらと思いを馳せる。山路、三島、某氏の交遊は…

古書蒐集家の

ひとりごと

投稿 荒井智之さん

交友のあった小川国夫の資料から集めて始めて30年。そのうちに趣味の俳句や著名作家の本にも魅力を感じ、気がつくやうに千点を越えるように、ある本を入手したときのエピソードを思い出そう。

昭和4年、紙問屋として池袋に創業し、統制経済の戦時下には、東京城北地区の紙配給所を務めておりました。昭和21年、合資会社から高村紙業株式会社となり現在に至っています。戦後数年して池袋が賑わいを見せはじめたことから、小売店を始めた。昭和42年から32年間に階店舗を銀行に貸しましたが、「この街と一緒に歩

お店探訪 ～紙のたかむら～

社長 高村光一さん



昭和4年、紙問屋として池袋に創業し、統制経済の戦時下には、東京城北地区の紙配給所を務めておりました。昭和21年、合資会社から高村紙業株式会社となり現在に至っています。戦後数年して池袋が賑わいを見せはじめたことから、小売店を始めた。昭和42年から32年間に階店舗を銀行に貸しましたが、「この街と一緒に歩

ある場所を歩いている感じがした」と熱意の結果、約1年かけて店舗に改造、「紙のたかむら」を平成12年12月にリニューアルオープンしました。

日本の生活文化に欠かせなかった手漉和紙は、良い材料と技術が生んだ「丈夫」「長持ち」といった特徴が愛されています。今でも障子紙や襖紙、長期保存の可能なプリンター用の和紙などを、長年愛用されているお客様が大勢いらっしゃいます。ほかにも昔画や張子、風などにも和紙は使われています。一枚一枚多様な顔を見せる手漉和紙は、自ら利用方法を創造してゆく楽しさも秘めています。近年、海外からのお客様が、版画風の千代紙や和紙製品をお土産として購入されることも増えてきています。日本文化の代表として外国でも愛される製品づくりにこれからも取り組んでいきます。

